

(平成24年12月分)

部 門	市況の概要
野 菜	12月期の野菜の入荷状況は、葉菜類、果菜類では、多くの品目で曇天と低温の影響から作柄不良がみられ、葉菜類は入荷減、果菜類は入荷前年並みとなった。根菜類、土物類では、多くの品目で、概ね作柄順調であったことから入荷増となった。野菜全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、入荷減であった葉菜類、果菜類で単価高となった。入荷増であった根菜類、土物類では単価安となった。野菜全体では前年並みとなった。 品目別には、長ダイコンが入荷増の単価高、キャベツ、ナス、ピーマンが入荷増の単価前年同期並、西洋ニンジン、バレイショ、タマネギが入荷増の単価安、ハクサイ、ホウレンソウ、レタス、キュウリが入荷減の単価高、トマトが入荷減の単価前年同期並、カブラが入荷減の単価安となった。 根菜類は、入荷が9%増加し、価格は7%安となった。 葉菜類は、入荷が4%減少し、価格は19%高となった。 果菜類は、入荷が4%減少し、価格は前年並みとなった。 土物類は、入荷が7%増加し、価格は6%安となった。
果 実	12月期の果実の入荷状況は、カンキツ類で着色遅れと降雨による収穫遅れにより入荷減、イチゴ類で、曇天と低温の影響から着色遅れがみられ入荷減、メロン類で加温用重油の高騰から作付面積を減少していることから入荷減となった。リンゴ類で概ね順調な入荷から入荷増、カキ類では着色遅れにより収穫の遅れていた分が、今月の出荷にずれ込んだことから入荷増となった。果実全体の入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は、入荷減であった柑橘類、イチゴ類、メロン類で単価高となった。一方、入荷増であったリンゴ類、カキ類では単価安となった。果実全体では、前年同期並みとなった。 品目別には、ふじリンゴ、富有柿が入荷増の単価安、王林が入荷前年並みの単価安、ミカン、イチゴ、アールスメロンが入荷減の単価高となった。 柑橘類は、入荷が9%減少し、価格は4%高となった。 リンゴ類は、入荷が26%増加し、価格は25%安となった。 カキ類は、入荷が41%増加し、価格は27%安となった。 イチゴ類は、入荷が19%減少し、価格は27%高となった。 メロン類は、入荷が28%減少し、価格は18%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン カブラ 西洋ニンジン	徳島県を中心に、鹿児島県、長崎県、和歌山県、千葉県からの入荷。 多くの産地で、低温のため肥大不良がみられたものの、順調な入荷により、全体の入荷量は、前年同期を7%上回った。 価格は、入荷増であったものの、需要が堅調であったことから前年同期を20%上回った。 京都府を中心に、滋賀県からの入荷。 10月の好天により大玉傾向での入荷となったものの、価格の低迷から下位等級の出荷を見合わせたことにより、全体の入荷量は、前年同期を13%下回った。 価格は、加工需要の減退から、前年同期を34%下回った。 長崎県を中心に、愛知県、鳥取県、鹿児島県、中国からの入荷。各産地とも、作柄良好で太物傾向であったことから、入荷量は、前年同期を42%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を18%下回った。
【葉菜類】 ハクサイ キャベツ ホウレンソウ レタス	茨城県を中心に、鹿児島県、滋賀県、大分県、岡山県からの入荷。 一部の産地で、低温により作柄不良がみられたことから、全体の入荷量は、前年同期を3%下回った。 価格は、入荷減により、前年同期を13%上回った。 愛知県を中心に、滋賀県、鹿児島県、茨城県、京都府からの入荷。 各産地とも、上旬までは大玉傾向で順調な入荷であったが、中旬以降、気温の低下により生育の遅れがみられた。全体の入荷量は、前年同期を5%上回った。 価格は、入荷増であったものの、中旬以降品薄状態であったことから、全体では前年同期並みとなった。 徳島県を中心に、京都府、福岡県、滋賀県、鳥取県からの入荷。各産地とも、低温により生育の遅れがみられたことから、入荷量は、前年同期を24%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を29%上回った。 兵庫県を中心に、徳島県、長崎県、愛媛県、香川県からの入荷。各産地とも、低温により小玉傾向の入荷であったことから、入荷量は、前年同期を19%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を64%上回った。

【果菜類】	
キュウリ	宮崎県を中心に、高知県、滋賀県、徳島県、京都府からの入荷。 各産地とも、曇天と気温の低下の影響から生育遅れがみられたことから、入荷量は、前年同期を9%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を5%上回った。
ナス	高知県を中心に、岡山県からの入荷。 各産地とも、曇天と気温の低下の影響から、作柄不良がみられたものの、中央集散機能の発揮により、全体の入荷量は、前年同期を22%上回った。 価格は、前年同期並みとなった。
トマト	熊本県を中心に、福岡県、滋賀県、京都府、三重県からの入荷。 各産地とも、曇天と低温の影響から着色遅れがみられたことから、入荷量は、前年同期を14%下回った。 価格は、入荷減であったものの、需要も低調であったことから、前年同期並みとなった。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、鹿児島県からの入荷。 各産地とも、曇天と低温の影響により作柄不良がみられたものの、前年の入荷が少なかったことから、全体の入荷量は、前年同期を9%上回った。 価格は、入荷増であったものの、中旬以降品薄状態であったことから、全体では前年同期並みとなった。
【土物類】	
バレイショ (メーク含む)	北海道を中心に、長崎県からの入荷。 各産地ともに、生育期の好天により作柄順調であったことから、入荷量は、前年同期を15%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を10%下回った。
タマネギ	北海道を中心に、兵庫県、中国からの入荷。 主力の兵庫県産で作柄不良であったものの、北海道産で、天候に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を5%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を8%下回った。
【その他野菜】	
生シイタケ	徳島県を中心に、北海道、広島県、岡山県、和歌山県からの入荷。 多くの産地で作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を3%上回った。 価格は、入荷増であったものの、需要が堅調であったことから前年同期を9%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	和歌山県を中心に、愛媛県、香川県、福岡県、佐賀県からの入荷。 多くの産地で、着色遅れや降雨により収穫遅れがあったこと、また、小玉傾向の入荷であったことから、全体の入荷量は、前年同期を9%下回った。 価格は、入荷減であったこと、また、需要の多いMサイズ中心の入荷により、前年同期を4%上回った。
ふじ （サン含む）	青森県を中心に、長野県、岩手県、福島県、山形県からの入荷。 主力の青森県産で、輸出が好調で国内の出回りが減少しているものの、長野県産、岩手県産の入荷が順調であったことから、全体の入荷量は、前年同期を26%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を25%下回った。
王林	青森県を中心に、岩手県、長野県、秋田県からの入荷。 主力の青森県産で、生産面積が増加傾向にあり、小玉傾向であるものの、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、黄系品種の需要の低迷により、前年同期を30%下回った。
富有柿	奈良県を中心に、福岡県、京都府、和歌山県からの入荷。 多くの産地で、着色遅れにより収穫の遅れていた分が、今月の出荷にずれ込んだことから、全体の入荷量は、前年同期を43%上回った。 価格は、入荷増であったこと、また、前年高値であったことから、前年同期を42%下回った。
イチゴ	福岡県を中心に、大分県、熊本県、佐賀県、長崎県からの入荷。 各産地とも、曇天と低温の影響により着色遅れがみられたことから、入荷量は、前年同期を19%下回った。 価格は、入荷減により、前年同期を27%上回った。
アールスメロン	高知県を中心に、熊本県、静岡県からの入荷。 多くの産地で、加温用重油の高騰から作付面積を減少させていることから、全体の入荷量は、前年同期を25%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を16%上回った。